

【今日の説教から】

今日の箇所には「キリストにあって」という言葉が6回出てきます。彼にあって歩きなさい(6節)、彼に根ざし、彼にあって建てられ(7節)、キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており(9節)、キリストにあって、それに満たされている(10節)、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて(11節)、バプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされた(12節)。

そして、「満ちみちている」や「満たされる」とか、「支配と権威」「力」という言葉も繰り返し出てきます。

一方で、「むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くもの」とか、「(人間の)手によらない割礼」とか、キリストによらない、頼らない生き方についても示されています。

私たちは12節にありますように、「あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされた」のですから、人となられた神であるイエス様に教えられつつ生きることをひたすら求めていこうではありませんか。

(マタイ11章28－30節)

皆様おはようございます。

9月も残すところあと今日を入れて3日、水曜日からは10月、朝晩は大分肌寒くなり、これまであんなに暑かったのに、暖房の準備をしようかなと考えるようになりました。今年もあと3か月。どんな冬になろうかなと気がかりにもなりますが、夏の疲れが出てくるころ、体が寒さへと切り替わる頃、皆さまにはご無理をなさらずにご自愛いただきたくお祈りしております。

さてコロサイ書を読み進めております。「キリスト教はキリスト」とよく言われます。それはどういう意味かと言いましたら、次の聖書の箇所がそれを言い得ていると思います。

ピリピ 3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、
3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

3:10 すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあずかって、その死のさま

とひとしくなり、

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

3:12 わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。

3:13 兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、

3:14 目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

ガラテヤ 6:14 しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。

6:15 割礼のあるなしは問題ではなく、ただ、新しく造られることこそ、重要なのである。

6:16 この法則に従って進む人々の上に、平和とあわれみとがあるように。また、神のイスラエルの上にあるように。

ガラテヤ 2:19 わたしは、神に生きるために、律法によって律法に死んだ。わたしはキリストと共に十字架につけられた。

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

2:21 わたしは、神の恵みを無にはしない。もし、義が律法によって得られるとすれば、キリストの死はむだであったことになる。

また今日の聖書の箇所にも次のように記されてあります。

2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、

2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

そしてこの言葉はほかの聖書の訳ではこのように記されてあります。

(新共同訳) 2:9 キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、 2:10 あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。キリストはすべての支配や権威の頭です。

キリスト教はキリストであると言いますが、ヨハネによる福音書の次のイエス様の言葉も大変重要なものです。

14:5 トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。

14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

14:7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。

14:8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。

14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

14:10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

「わたしを見た者は、父を見た」。それはどういうことでしょうか。

イエス様は「わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。わたしが父におり、父がわた

しにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。」とおっしゃいました。

遣わされてという形で、イエス様は父なる神様の御心を深く求め、祈り求めて力を得ました。それでもイエス様は「自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっている」とおっしゃいました。これこそがイエス様の献身の姿です。

マルコ 14:33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、

14:34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。

14:35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、

14:36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。

14:37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。」

14:38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

弱い私たちのためにとりなし祈る声があります。聖霊様です。

ローマ 8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

このようにしてガラテヤ 2:20 のように、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」という守りの中に私たちはあり、私たちの祈りもまた聞かれ、

「自分から話しているのではない。父が(キリストが)わたしのうちにおられて、みわざをなさっている」という境地に導かれ、ヨハネ 14 章のこの御言葉が実現します。

「12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」

キリスト教はキリスト、このことを胸に刻みつつ、今日の御言葉を味わいましょう。

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。

2:7 また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

「彼の中に」「キリストの中に」すなわち「キリストと共に」という言葉が今日の箇所にも 6 回出てきます。それはすなわち次の通りです。

彼にあって歩きなさい(6 節)、彼に根ざし、彼にあって建てられ(7 節)、キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており(9 節)、キリストにあって、それに満たされている(10 節)、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて(11 節)、バプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされた(12 節)。

キリスト・イエスを受け入れたという事。わが身の救い主として心に受け入れたという事は、その救いを受け入れたという事と共に、イエス様によって生きるという生き方を受け入れたという事です。「あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい」。

そして 7 節にありますように、キリストは私たちの根です。根から吸収した水分や養分を得て植物が育つように、私たちの日々の糧であり拠り所、命の源もまたイエス様です。

ヨハネ 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっている

ならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにいるのと同じである。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちに宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

このヨハネ 15 章の御言葉も、大変重要なものです。

いかに私たちがイエス様と共にいるべき存在であり、イエス様から学ぶべきであり、それが私たちの命であるかが語られています。

2:7 また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

私たちの根っこはイエス様です。そしてそこを土台として、イエス様のうちに私たちは力強く建て上げられ信仰は力づけられ、明確に確認され、照合され、点検され、証明され、支えられ、保たれるのです。私たちの喜びは増え広がり、溢れ広がり、留まるところを知りません。そのように喜びを増し加えなさい、溢れさせなさい、必要以上に喜びをもって過ごしなさいと聖書は語ります。どうしてそんなに感謝があふれているんだ、そこまで感謝しなくてもいいのではないかというほどに感謝しなさい。それが私たちの信仰です。またそうできる

のが私たちの信仰のゆえんなのです。

2:8 あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。

世の中の目には見えない諸力。目には見えない魑魅魍魎の力が人の運命を定めているという考えがあるようですが、それは人の考え方です。人間の伝統です。それはまことしやかに神様の知恵に比べれば、見えても、空っぽで何もなく、目的もなく無駄に終わるものであり、愚かなものです。私たちはそれらに捕らわれないようにと語られています。

2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、

2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、

2:11 あなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて、肉のからだを脱ぎ捨てたのである。

キリストのうちに、その人として過ごされた形の中に神性があるのです。神性が満ち溢れているのです。このキリストのうちに完成への導きがあり、キリストは全ての統べ治める力と権威とを持っておられます。私たちは人の手によらず、そのキリストから直接に割礼を受けており、すなわちキリストと共に死に、キリストと共に生きて、キリストと共に生きるという、全く新しい生き方に召されているのです。それは私たちの生まれつきの肉の性質に生きる生き方に生きるのではなくて、神様の御心に生きる、聖霊に導かれて生きる生き方へと入れられているという事です。

2:12 あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。

私たちはこの喜びを胸に、キリストのうちにあり、今週もキリストと共に全く新しい生き方をすることが出来るのです。感謝しつつ、委ねつつ、待ち望みつつ一週間を過ごしましょう。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

私たちには、キリストのうちにありて生きる模範が示されていますからありがとうございます。それはむなしい空っぽの、無目的で無駄足で愚かなものではなく、目に見えないもろもろの力を恐れる生き方ではなくて、満ち溢れる神様の性質に似せられて満たされる完成の世界があり、死からの復活がありますからありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン